

上下水道DX 推進事業（名古屋市上下水道局）

- ❑ 災害時には、①リソース不足、②情報共有の困難さ、③集計等により判断・指示に時間を要することが課題
- ❑ 当該システムにより、①自動収集・集約によるリソース確保、②システムを介した円滑な情報共有、③リアルタイムに可視化された情報を基にした意思決定の迅速化を図ることで、お客さまへの速やかな情報提供並びに上下水道施設の迅速な応急復旧及び機能回復を実現

事業概要

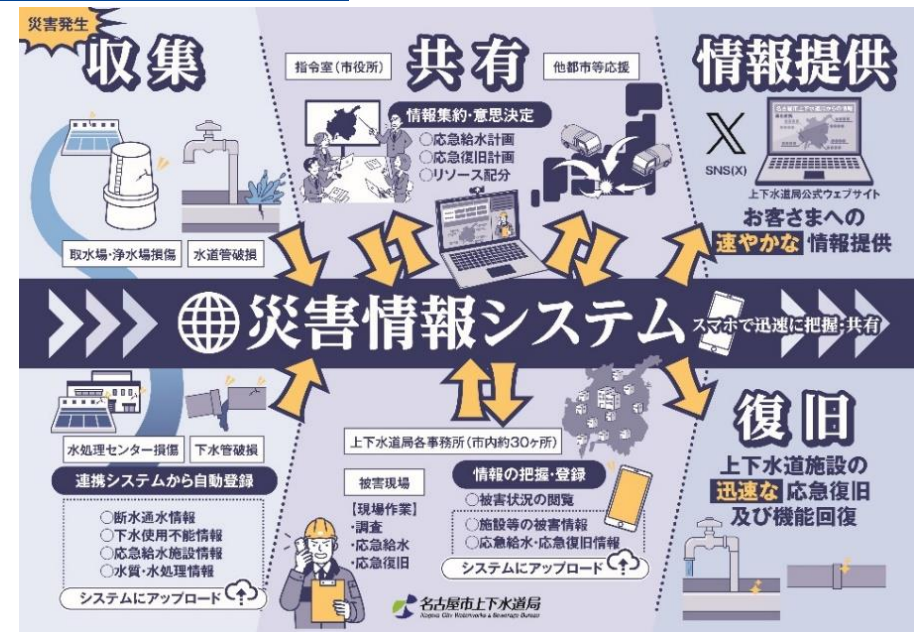
- 事業期間：令和5年～令和14年
(システム開発については、令和7年～令和9年2月予定)
- 事業名称：災害情報システム構築及び運用保守業務委託
- 事業内容：
災害時における「リソース可視化」、「他システムとの連携も含めたリアルタイム情報共有」、「他都市応援事業体等も含めたBYOD※1」、「意思決定の迅速化」、「他自治体への災害支援での活用」を実現するGIS※2をベースとしたクラウド環境へのシステム構築

※1 BYOD：Bring Your Own Deviceの略で、私用デバイスを利用すること
 ※2 GIS：位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術

災害対応における課題及び効果

課題	①リソース不足	②情報共有	③判断・指示
	- 発災当初は、人員、モノ、情報が不足 - 被害状況により局地的にリソース不足	- 紙媒体での手間や処理忘れが危惧 - 現状把握の資料作成及び共有が手間	- 被害状況の集計に時間を要す - 判断、指示までに状況が変化する可能性あり
効果	- 自動集計などでリソースを確保 - リソースの状況を逐次把握可能 - 全体の状況を俯瞰で把握しながらリソースを再配分	- 誰でもどのデバイスでもクラウドから情報取得が可能(応援隊含む) - システムの電子地図上に情報を集約し、現状把握が容易	- 即時に集計、集約し、ダッシュボードで状況把握が可能 - 状況把握の容易性、即時性向上により適切かつ早期に判断、指示が可能
	リソースの確保	円滑な情報共有	意思決定の迅速化

災害情報システムのイメージ



速やかな情報提供及び迅速な応急復旧等を実現する技術等

他都市応援の利用も可能なクラウド環境	円滑な情報共有を実現する電子地図	平時から災害時に備えるフェーズフリー
- クラウド上に情報を集約し、被害現場で管路情報等を確認 - 他都市応援事業体等も私用スマホ等でシステムから情報を取得	- Googleマップなどの電子地図をベースに上下水道管路や被害情報を集約 - 他都市への災害応援時にも、他都市の上下水道に関する情報も共有	- 平時における水道管の漏水や下水道管の陥没などでも利用 - 平時利用により災害時を意識した改善や気づきを醸成

問合せ先

名古屋市上下水道局経営本部総務部防災課
 TEL:052-972-3658 / Email: bosai@jogesuido.city.nagoya.lg.jp